

浪曲



玉川 太福

(たまがわ だいふく)

新潟市出身、千葉大学卒業、2007年玉川福太郎に入門。玉川一門ゆかりの古典演目を継承する一方、新作にも積極的に挑戦。「地べたの二人」「寅さんシリーズ」など浪曲の魅力をフレッシュに発信。2022年花形演芸大賞銀賞。2023年彩の国落語大賞特別賞。2025年、新宿末廣亭1月下席で、浪曲師として60数年ぶりの主任(トリ)をつとめ、10日間大入満員という歴史的な興行。笑点などテレビ、ラジオの出演も多数。今、浪曲界を引っ張る存在として、笑いと感動をお届けに、さらにビッグになり平田に凱旋！

曲師



玉川 みね子

酒田市旧平田町出身。福太郎の相三味線をつとめ、現在はベテランから一門の弟子までの曲師として活躍。後進の育成に努めている。日本浪曲協会参与。当公演の出演者調整もお願いしている。三味線の調子もますます冴える。

出演者プロフィール

江戸太神楽



花 仙 (かせん)

墨田区向島出身。2004年4月江戸太神楽(えどだいかぐら)鏡味小仙(現. 丸一仙翁社中(まるいちせんおうしゃちゅう))に入門。お馴染みの傘回しはもちろん、投げる曲芸、バランスの曲芸など、アツとおどろく、楽しく華やかなステージに乞うご期待！

落語



立川 吉笑 (たてかわ きっしょう)

2010年11月、立川談笑に入門。2012年4月、二ツ目昇進。2025年6月、真打昇進。古典落語的世界観の中で、現代的なコントやギャグ漫画に近い笑いの感覚を表現する『擬古典<ギコテン>』という手法を得意とする。『中央公論』での「炎上するまくら」、『note』での「立川吉笑ウェブ書斎『羅房』」など、執筆業にも積極的に取り組んでいる。主な著作に『現在落語論』(毎日新聞出版)がある。春風亭昇々・瀧川鯉八・玉川太福が所属する創作話芸ユニット『ソーゾーシー』のメンバー。ようこそ落語立川流！「吉笑ワールド」を堪能あれ。